

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	H.S	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学年	3年	派遣国	英国
派遣大学	De Montfort University		
期間	2021年 9月 6日～ 2022年 7月 14日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (98,700) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (3) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	15,000 円	
学用品購入費	0 円	
交通費	5,000 円	
交際費	30,000 円	
その他	10,000 円	日用品 (トイレットペーパー、洗面用具、洗濯代等)
合計	60,000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

日中の治安は問題ない。街中（特にシティーセンター）には、いたるところに物乞いがいて声をかけられることは多々あるが、危険は感じない。夜は少し治安が悪くなるので一人歩きは要注意。大学を挟んで私の寮と反対側にある公園（Bede Park）は、夜に治安が悪いことで有名。weed を吸っている人が沢山おり、街中でその独特な匂いがすることも多々ある。友人によると、学生都市ということも weed が盛んな理由だそう。

3. 医療について

(1) 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他（ ）		
加入期間	（ 11 ）ヶ月間	保険料	（ 114,380 ）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	IHS		
加入期間	（ 11 ）ヶ月間	保険料	（ 112,623 ）円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ **Leicester** ）

De Montfort 大学と Leicester 大学の二つの大学がある学生都市です。大学から徒歩 10 分弱のところにある City Center はコンパクトではありますが、生活に必要なお店はすべて揃っているので便利です。規模は小さいですがショッピングモールもあります。また、スーパーマーケットは City Center 以外にも至るところに点在していますし、23 時ごろまで開いているところも多いので便利です。中華系スーパーもいくつかあるので、日本食をつくるのに必要な調味料や食材もほぼすべて現地で揃うと思います。さらに、鉄道駅も便利な場所にあり、ロンドンまで 1 本で行けるのでとても便利です。ロンドンまでは、1 時間強で行くことができます。帰宅が遅くなった時なども、寮まで 700 円ほどで Uber (taxi) を使って帰ることができるのでその点も安心だと思います。Uber は日常的に利用されています。そのほかにも、大きな公園が二つあったり、大きな川が流れていたり自然を感じられる場所も多くあります。学生都市ということもあり、イギリスの中でも特に多様性を感じられる都市であると思いました。街中では、本当に様々な人種の人をみかけます。

【学業編】

1. 大学情報

大学	De Montfort University	所在地	Leicester
最寄空港	East Midlands Airport	空港からの距離	15.8 miles
空港⇄大学	(bus, taxi and train) *移動手段		
学生数	26,000	留学生数	2,700
学部	Faculty of Arts Faculty of Humanities Faculty of Business and Law Faculty and Health and Life Sciences Faculty of Computing, Engineering and Media *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Faculty of Business and Law / Politics and International Relations *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(6)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Environmental Politics		Globalisation and Democracy		
午後	Globalisation and Democracy Environmental Politics	International Security			International Law

3. 履修内容

科目（和訳）	環境政治		
履修期間	年間	単位数	30
授業内容／形態	内容 ・様々な環境課題と政府・市民レベルでの政策について 形態 ・Lecture はオンライン（週1）、Seminar（週1）は対面		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目 A）	
	単位数	2	
	担当教員	滝田祥子	

科目（和訳）	グローバル化と民主化		
履修期間	年間	単位数	30
授業内容／形態	内容 ・グローバル化/民主化のセオリーとラテンアメリカ及びアフリカにおけるグローバル化と民主化 形態 ・Lecture はオンライン（週1）、Seminar（週1）は対面		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目 B）	
	単位数	2	
	担当教員	滝田祥子	

科目（和訳）	国際安全保障		
履修期間	年間	単位数	30
授業内容／形態	内容 ・安全保障のセオリーと地域ごとの安全保障課題とその政策、安全保障に関するリアルタイムの話題（ウクライナ侵攻など） 形態 ・2時間の Work Shop（週2）		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目 C）	
	単位数	2	
	担当教員	滝田祥子	

科目（和訳）	国際法		
履修期間	年間	単位数	30
授業内容／形態	内容 ・国際法について（法源・主体・国内法との関係）、自決権、国家責任法、国際人道法、国際経済法、武力行使と国際法		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目 D）	
	単位数	2	
	担当教員	滝田祥子	

【総括】

(1) 全体的な感想 *留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

まず1つ目に、コロナ禍における留学を経験したことによる学びがありました。日本もイギリスもそしてその他の国も同じように直面し、同じような困難に陥った新型コロナウイルスのパンデミックについて、国民性や生活様式、生活習慣の違いでこんなにもその対処の仕方や向き合い方が違うのかと驚かされました。到着した時は、まだ公共の場でのマスク着用が必須でしたが、それがなくなった時、そしてすべての制限が解除されたときにそれを体験する側ではなく日本から客観的に見ている側であればきっと反対意見しか浮かばなかったと思います。しかし、当事者であったことで「これも一つのやり方としてアリなのかもしれない」と思うようになりました。この経験を通じ、「コロナウイルスという他のどのような現象や出来事よりもどの国も同じように直面した課題といえるであろうものに対してさえもこんなにも考え方や見方に違いがでるのだから、国同士を比較することは単純ではないし、もっと慎重にならなければいけない」ということを感じ、他国を理解する際にその土地に足を踏み入れ、体験し体感することの重要性を再認識できました。

2つ目に、「マイノリティであること」の辛さです。レスターは大きなインド人コミュニティがあったり 2つの総合大学があったりとイギリスの中でも多様性のある地域だと思えますが、(外見が) 東アジア系の人の割合が、私がこれまで訪れたことのあるどの国や地域よりも少ないという印象をもちました。特に、新型コロナウイルスの影響もあってか、渡航直後は街中でも全くみかけないと言っても過言ではないほどでした。「メディアでよく報じられる、人種差別やアジア人ヘイトがどのようなものなのか、どれだけ辛いのか身をもって体験したい」という思いもあってイギリスという土地を留学先に選びましたが、この選択は間違っていないと感じます。私の性格も関係しているかもしれませんが、道を歩いていてもお店に入っても周りからジロジロ見られているような、色眼鏡で見られているような気がしました。少し冷たくあしらわれたりしたときに、軽蔑や差別をされているような気がしました。この時の感情を言葉で表現するのは難しいですが、とても居心地が悪くて、生き辛さや孤独感を覚えました。この経験から気づいたことは、「実際に差別をされているかなど、実際に周

りがどう対応や反応をしているかどうかが問題ではない」ということです。ジロジロ見られているのも、色眼鏡で見られているのも、軽蔑や差別をされているような気がしたのも、全て勘違いだった可能性、私の思い込みであった可能性は十分にあると思います。ですが、自分がマイノリティであるということを突きつけられた時、例えそこに勘違いがあるとしても、アウトサイダー感を抱いてしまうし、居心地の悪さや生き辛さを覚えてしまう可能性が大いにあることを学びました。これは、日本では絶対にできない経験ですし、どこでもできる経験ではないので本当に良い学びになりました。

3つ目に、一人暮らしで自分の体を健康に保ちながら、100%の力で勉強や学習と向き合うことの難しさを学びました。私は日本では実家暮らしで高校生のときに経験したニュージーランド交換留学でも10カ月間丸々ホームステイだったので、一人暮らしは今回が初めての経験でした。掃除、洗濯、料理をはじめとする家事をすべて一人でしなければいけない中で大学に行ってその課題をこなすのは想像以上に大変でした。睡眠時間を削ったり、食事を適当にすませたりすれば時間は確保できますが、慣れない環境ということも相まって普段よりも体調を崩しやすくなっていたので、あまりそうしないようにしていました。大学を卒業し、社会人になる前にその大変さを経験できたことは、よい気づきと学びになったと思います。

(2)今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

まず、自分自身の将来についてです。私は留学する前、大学1年生の夏頃から大学卒業後は外務省で働くというビジョンをもっています。留学中もこれはブレませんでした。むしろ、様々な経験をし、日本が世界の中でもとてもユニークな国であることや想像以上に興味関心を持たれていないことなどを肌で感じ、外務省で働きたいという思いは強まったように思います。面接等において、ある国や地域、そしてそこで暮らす人びとについて学ぶためには実際にその国で過ごすこと、地元の人々と関わるのが重要であること、すなわち外から見ただけでは分からないことが沢山あり、本当の意味で理解することは難しいということを経験したという経験等をアピールできればと考えています。そして、語学力のキープとIELTSやTOEICにおけるより高いスコアの取得、フランス語学習の継続にも力を入れたいと思います。そして、自分がマイノリティであること、その辛さを経験したことを活かしてYCUの留学生をはじめ、日本で暮らす外国人の方々のサポートをしたり、大きなことでなくても日常的に親切にしたりしたいと思います。「気にかけてくれること」がいかに有難く、嬉しく、心の支えとなるかということに気付いたという経験を活かしたいです。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

1つ目に、「自分で決める」ということがものすごく大切だと私は考えています。留学に本当にいくかどうか、どのくらいの期間いくのか、どこに行くのか、どういった方法で行くのか、何を学ぶのか、どこに滞在するのかなど挙げればキリがないですが、選択の途中で助言をもらったり相談に乗ってもらったりするのはもちろん良いですが、最終決定を自分でするのは本当に大事です。なぜなら、留学中は乗り越えなければならないキツイこと、辛いこと、苦しいこと、大変なことにももちろん直面するので、その時に自分で決めたことであれば「自分できめたのだから頑張ろう」と、それを乗り越えられますが、他人に決められたことだと挫折してしまうかもしれないからです。もちろん、これには個人差があると思いますし、すべての人に当てはまる考え方ではないと思いますが、一つのアドバイスとして受け取ってもらえると嬉しいです。

2つ目に、早め早めの準備をするということも大切だと思います。私は、大学入学前から交換留学をするということを心に決めたいので、入学直後から学内の留学説明会に参加したり、必要な英語資格の取得に向けて自分で勉強をしたり授業の履修を工夫したりしていました。その甲斐もあり、1年生の夏には必要な英語資格条件を満たすことができ、余裕をもって準備をすることができました。留学に行くというのは、きっとみなさんが考えている以上に、準備に時間がかかりますし考えなければならないことも多いです。なので、少しでも行きたいという思いがあるのであれば、積極的にそして早め早めに動くことをおすすめします。